

ノロウイルス検査

Information

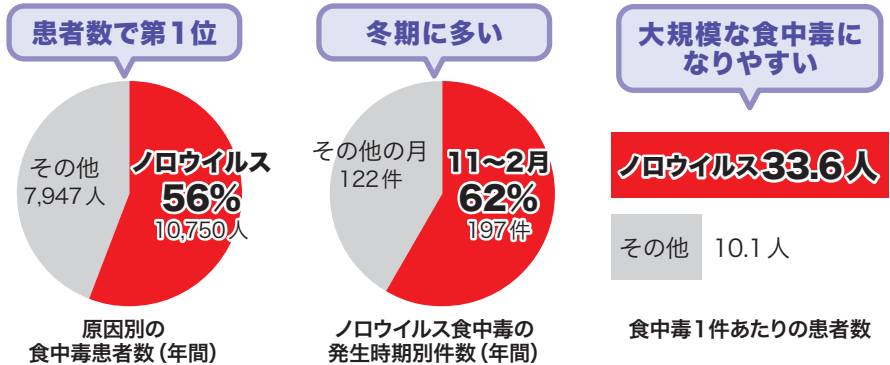
厚生労働省は、毎日の調理従事者の健康状態の確認及び記録の実施等について、「大量調理施設衛生管理マニュアル」の一部を改正しました。

冬も食中毒に注意！

ノロウイルス食中毒は冬期に多発

年間の食中毒の患者数の約半分はノロウイルスによるものですが、うち約7割は11月～2月に発生するなど、この時期の感染性胃腸炎の集団発生例の多くはノロウイルスによると考えられます。

ヒトの手を介した感染が多いため、調理施設、医療現場、老人介護施設および保育園などでは定期的な検便検査が求められています。



※出典：食中毒統計(平成26～30年の平均。病因物質が判明している食中毒に限る)

厚生労働省「大量調理施設衛生管理マニュアル」

平成29年6月16日付[マニュアルより一部抜粋]

調理従事者等は臨時職員も含め、定期的な健康診断及び月に1回以上の検便を受けること。検便検査^{注7}には、腸管出血性大腸菌の検査を含めることとし、**10月から3月までの間には月に1回以上又は必要に応じて^{注8}ノロウイルスの検便検査に努めること。**

注7：ノロウイルスの検査に当たっては、遺伝子型によらず、概ね便1gあたり 10^5 オーダーのノロウイルスを検出できる検査法を用いることが望ましい。ただし、検査結果が陰性であっても検査感度によりノロウイルスを保有している可能性を踏まえた衛生管理が必要である。

注8：ノロウイルスの検便検査の実施に当たっては、調理従事者の健康確認の補完手段とする場合、家族等に感染性胃腸炎が疑われる有症者がいる場合、病原微生物検出情報においてノロウイルスの検出状況が増加している場合などの各食品等事業者の事情に応じ判断すること。

〈陽性が出たときの対応〉

ノロウイルスの無症状病原体保有者であることが判明した調理従事者等は、検便検査においてノロウイルスを保有していないことが確認されるまでの間、**食品に直接触れる調理作業を控える**など適切な措置をとることが望ましいこと。

下痢又は嘔吐等の症状がある調理従事者等については、**直ちに医療機関を受診し、感染性疾患の有無を確認すること。**ノロウイルスを原因とする感染性疾患による症状と診断された調理従事者等は、検便検査においてノロウイルスを保有していないことが確認されるまでの間、**食品に直接触れる調理作業を控える**など適切な措置をとることが望ましいこと。

厚生労働省登録検査機関(食品衛生法・水道法)

 **CRC食品環境衛生研究所**

〒813-0062 福岡市東区松島5-7-6
TEL 092-623-2211 FAX 092-623-2212

CRC食品

佐賀営業所	〒840-0023 佐賀市本庄町袋131-16	TEL 0952-27-0831
長崎営業所	〒852-8002 長崎市弁天町1-21	TEL 095-864-7027
諫早営業所	〒859-0405 諫早市多良見町中里129-9	TEL 0957-28-5031
鹿児島営業所	〒890-0064 鹿児島市鴨池新町6-2	TEL 099-253-2867



食品関連検査

食品微生物検査・商品抜き取り検査・保存試験・栄養成分分析・味覚分析・食物アレルギー検査・食品添加物検査・残留農薬検査・異物検査 など

衛生関連検査

衛生調査・腸内細菌検査・施設関連の微生物検査・ノロウイルス検査・ノロウイルスふきとり検査 など

水質関連検査

飲料水検査・ビル管理法水質検査・水道法20条検査・プール水検査・浴槽水検査・濃度計量証明(下水・排水・河川など)・ゴルフ場農薬検査

環境関連検査

ばい煙測定・ダイオキシン類測定・室内空気環境測定・温泉分析・作業環境測定(ホルムアルデヒド・エチレンオキシド・有機溶剤) など

BLEIA 法 (生物発光酵素免疫測定法) は、ノロウイルスを特異的かつ高感度に検出することができます。また、全自動生物化学発光免疫測定装置 BLEIA[®]-1200 により糞便由来のノロウイルスを簡便かつ短時間に検出することが可能になりますので、ノロウイルスの検便検査に最適です。

BLEIA 法は、化学発光法と比較して数倍～数十倍高感度で、遺伝子検査と同等の感度を持っています。

感度が高い

感度が低い

RT-PCR法
BLEIA 法

RT-LAMP法
TRC法

NASBA法

イムノクロマト法
ELISA法

◆他法との相関

		リアルタイム RT-PCR法		計
		陽性	陰性	
BLEIA 法	陽性	42	0	42
	陰性	4	70	74
計		46	70	116

感度：91.3%, 特異度：100.0%, 全体一致率：96.6%
(モダンメディア63巻6号2017より引用)

検出感度

検体	遺伝子型	ウイルス量 (コピー/g便)	希釈率							推定感度 (コピー/g便)
			×1	×10	×10 ²	×10 ³	×10 ⁴	×10 ⁵	×10 ⁶	
A	GI.8	2.8×10 ⁷	+	+	+	+	-	-	-	2.8×10 ⁴
B	GII.2	7.5×10 ⁷	+	+	+	-	-	-	-	7.5×10 ⁵
C	GII.3	7.0×10 ⁹	+	+	+	+	+	+	-	7.0×10 ⁴
D	GII.3	1.0×10 ⁷	+	+	+	-	-	-	-	1.0×10 ⁵
E	GII.4	2.2×10 ⁷	+	+	+	-	-	-	-	2.2×10 ⁵
F	GII.4	4.3×10 ⁸	+	+	+	+	-	-	-	4.3×10 ⁵
G	GII.4	1.4×10 ⁸	+	+	+	+	-	-	-	1.4×10 ⁵
H	GII.6	3.3×10 ⁹	+	+	+	+	-	-	-	3.3×10 ⁶
I	GII.6	6.0×10 ⁹	+	+	+	+	+	-	-	6.0×10 ⁵

(メーカー資料)

ノロウイルス検査概要

検査項目名	ノロウイルス抗原 BLEIA	ノロウイルス RNA
検査材料	糞便	糞便 (1g) ・ 吐物 (2g)
保存	冷蔵	冷蔵
検査方法	BLEIA	RT-PCR
基準値	陰性 (-)	GI (-) GII (-)
実施料判断料	未収載	未収載
所要日数	2～4日 (10/1～3/31)、2～8日 (4/1～9/30)	2～4日 (10/1～3/31)、2～5日 (4/1～9/30)

※BLEIA法は、大量調理施設衛生管理マニュアル注7に記載されている「概ね便1gあたり10⁵オーダーのノロウイルスを検出できる」検査法です。